座間市立入谷小学校　校長室通信　NO.26　　2022.10.31（月）
校長　山﨑　聡子

笑顔いっぱい　かがやく入谷っ子

米作り

10月20日（木）に，稲刈り（５年生），稲運び（３年生），はざかけ（６年生），落穂拾い（１年生）を行いました。当日は，入谷親藁会やPTAの方々，卒業生の保護者の方も手伝いに来てくださり，子供たちの活動を支えてくださいました。

私から，稲刈りを行う前に，５年生の子供たちに次のことを話しました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・４年生が田植えをした小さかった苗が，どんどん成長して大きく実った稲穂を刈り取ることで，命を終えること。

・しかし，実ったお米をみんなで食すことで，自分たちの力になり，命は受け継がれていくこと。

・大きく育った稲穂に感謝しながら，稲刈りを行うこと。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

５年生は，広い田んぼの中に実った稲を一生懸命刈っていました。刈り取られた稲は，いくつか束にして，紐で結んで道路まで運んで行きます。紐の縛りが弱いと，はざかけをすることができないので，みんなしっかりと結ぶよう努めていました。中には縛りが弱いものがありましたが，途中，稲刈りの応援に来てくれた６年生が，丁寧に手直ししてくれました。

束になった稲穂を３年生が学校まで運びます。稲運びです。稲穂を両腕に抱え，何度も往復しました。稲刈りの応援に来てくれた６年生が，稲運びでも活躍してくれました。「大丈夫？」「持てる？」と優しい言葉を３年生にかけ，持ちやすいように稲穂を手渡してくれました。また，学校ではざかけをしていた６年生が，稲を学校に運んできた３年生に，「代わるよ。」「持つよ。」と言って，稲を運んできた３年生を気遣い温かな関わりがうまれていたという話を入谷親藁会の方から伺いました。

下級生を支え，活動の力になってくれた６年生。頼もしいです。上級生の後ろ姿を見ている下級生が，次に学年が上がった時に，自分たちも同じように動くことができるようになると考えます。良き伝統が引き継がれていくことを嬉しく思います。

稲刈りを終えた後は，１年生が落穂拾いを行いました。「あった。あった。」と嬉しそうな声をあげ，あちこちに落ちている稲穂を見つけて，拾っていました。１本の稲穂も大切にしていくということを体験を通して感じることができたのではないかと思います。

入谷小学校の米作りは，昭和５３年に学校が創立された年に校歌制定記念もちつき大会が行われて以降，現在にいたっています。田んぼがそばにある地域の特性を活かして，心豊かな子供の育成を目指す教育活動の一つの柱です。子供たちの素晴らしい姿や表情が引き出される米作りの活動は，今後も大切な活動として位置付けていこうと思っています。

11月には，５年生による脱穀，12月には６年生によるわら細工作りが行われます。

そして，最後は，給食でもち米をいただき，稲の命を自分の中に取り入れていきます。命あるものに感謝です。